

竹風和歌抄

蛭

おのれのみ夏をしらせて松陰の

岩井の水にとぶほたるかな

われのみいともえてみせたる蛭かな

たれも思ひは身にそふれども

夏釈教

いたづらに身をやきすつる蛭かな

法の為とは思はざるらむ

竹風和歌抄巻第五

文永六年八月百首歌

夏

たえだえにほたるのかげのみだるは
そともの竹に風や吹くらん

「国歌大観」より